

## 部署紹介

# 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

主任部長 碓田 猛真

## 1 耳鼻咽喉科・頭頸部外科のご紹介

### 1 耳鼻咽喉科・頭頸部外科の名称について

まずは名称ですが、耳鼻科の領域は、大まかに言うと、首から上の、脳や脊椎と眼を除く領域です。ところが、耳鼻科という「手術もするの?」「癌も扱うの?」という方も時々おられます。少し前ですが、集中治療室(ICU)から出てきた医師に「どうでしょう?」と聞く家族に「私、耳鼻科担当です」と返すギャグもありました。しかし、実は耳鼻科領域の癌(頭頸部癌)は全癌腫の約5%で、5大癌ほどの数ではないものの我が国では年間15,000人程度罹患するとされています。そして、再建を伴う大きな手術では術後ICU管理となる場合も珍しくありません。

これらのこともあってか、20年くらい前から大きな病院では耳鼻咽喉科から耳鼻咽喉科・頭頸部外科等の名称に変更するところが多くなってきました。当院でも2019年から現在の耳鼻咽喉科・頭頸部外科に改称しています。なお、日本の耳鼻科の総本山、日本耳鼻咽喉科学会も2021年に日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会に改称されています。まあしかし、名称が長いですから、普段の呼称は耳鼻科でいいんじゃないかな、と個人的には思っています。



▶前列: 裕田医師 後列右: 中原医師  
後列中: 野村医師 後列左: 室上医師

### 2 良好な治療成績

当科の医師は常勤4名で、耳や鼻の各種疾患の他、甲状腺、耳下腺や頭頸部の癌を含めた腫瘍など、耳鼻咽喉科頭頸部外科領域の殆んど疾患に対応しています。鼻科手術や耳科手術は院内でも有数の手術数で、治療成績も良好です。

また聴覚言語センターも併設しており、常勤言語聴覚士が2名おり、補聴器や人工内耳の調節、言語発達遅滞のお子さんの訓練などを行っています。

補聴器が役に立たない程度の重度難聴の方には、人工内耳を行います。人工内耳術後の聴取成績は、手術もさることながら人工内耳の調節をうまく行えるかが重要になります。当院言語聴覚センターの言語聴覚士は経験豊富で、このため、術後の聴取成績が良好です。

先天性難聴のお子さんでは、難聴のため言葉を覚えられず言語発達障害を来すことが問題です。しかし、早期発見し、早期に補聴器を試み、必要であれば早期に人工内耳手術を行い、適切に調節することで正常聴力のお子さんとならぬ言語発達を遂げることが可能になります。当科で人工内耳埋込術を受けられた、現在小学生以上のお子さんでは、90%以上が普通学校の普通教室に通学されており、4・5歳以上になつてから当科を受診されたお子さんを除くと100%になることから、その優秀性が判るかと思えます。



▶診療の様子

### 3 頭頸部癌について

癌についてですが、頭頸部癌は発声、発音や嚥下など生活に直結する部位であり、また顔面であれば醜形が気になる部位です。このため、いかになるべく機能や形態を保ちつつ癌を治療していくかが問題になります。当科は頭頸部外科の名の通りの手術的な対応はもちろんです。が、小生は抗癌剤治療に精通した「がん薬物療法専門医・指導医」の資格を持っており、手術のみならず放射線や抗癌剤を考え合わせ、その患者さん一人一人に最も良い方向を考えてご本人と相談させて頂いています。手術で治すことができなくなった場合でも諦めずに対応していくことに努めています。そのような場合でもお気軽にご相談下さいませ。

### 4 地域との連携について

近年、我々のような病院と地域で開業されている開業医の先生方との連携が大切とされています。当科は近隣の開業の先生方から多数の紹介を頂いており、落ち着けばまた元の先生に紹介させて頂いており、連携の取れた診療を提供していると考えています。昨年からは厚生労働省の通達で選定療養費が値上げとなり、いきなり当院のような病院を受診しますとそれだけで数千円の自己負担の料金が発生します。耳鼻科関連で不調を抱えられた皆様には近隣の先生を通してご相談下さいませと幸いです。



Profile 碓田 猛真 (さこた たけま)

1988年3月  
弘前大学医学部 卒業  
2008年4月  
市立泉佐野病院 耳鼻咽喉科部長  
2023年5月 現在  
りんくう総合医療センター  
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 主任部長  
鳥取大学医学部附属病院連携診療  
教授